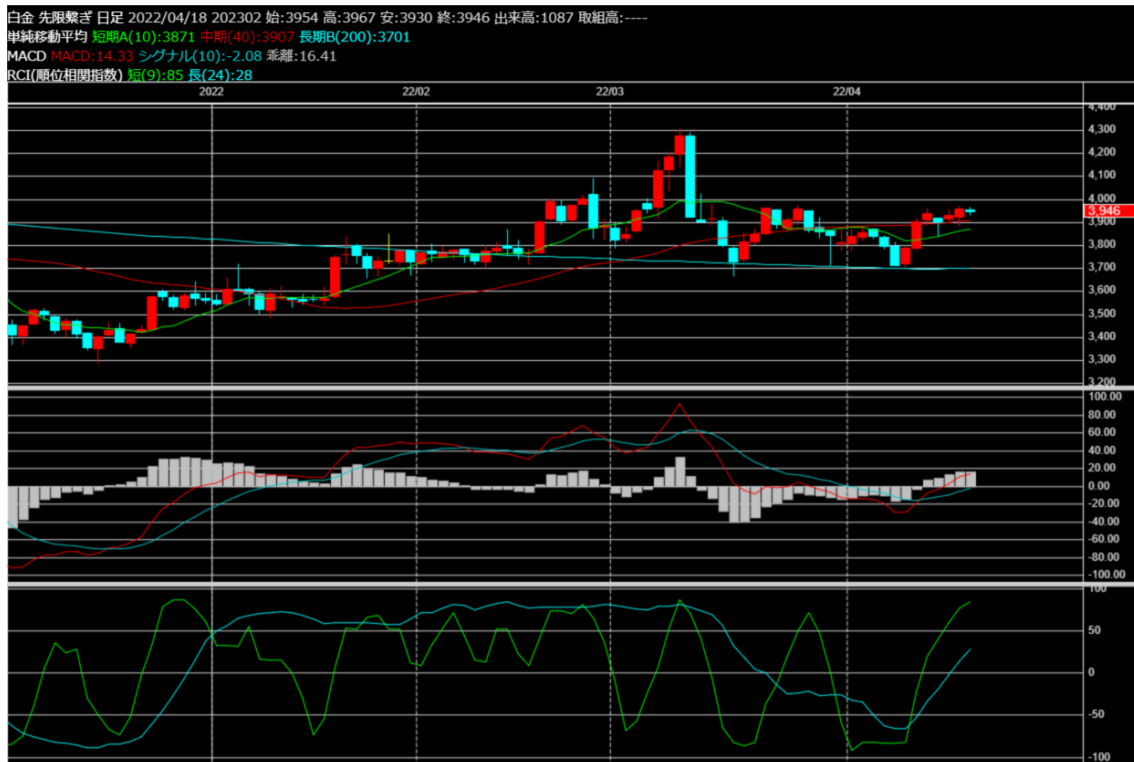


< 白金標準先物、3700 円～4000 円のレンジ離脱か・・・ >



(出所：オアシス)

ドイツ欧州経済センターが発表した4月のドイツZEW景況指数は、3月の-39.3を上回る-41と低下しており、ロシアのウクライナ侵攻を受け3月以降の景気後退懸念は続いている。また北欧の中立国であるスウェーデンやフィンランドがNATO入りを表明し、ロシア政府はスカンジナビア半島に向けて核配備を発言するなど欧州における地政学的なリスクの拡大を見せている。

また中国上海市は、3月28日から4日間のロックダウンを実施したが、新規感染者が25000人と拡大傾向を受け、ロックダウンが3週間続いており中国経済の懸念要因となっている。そのため白金標準先物は、LPPMのロシア精製会社2社の認定の削除処置で一時3970円まで高値を模索しているが、欧州経済や中国経済の懸念を受け直近の高値3974円を超える事が出来ていない。そのため3700円～4000円のレンジからの離脱が確認されていない事から、今週は3974円の高値を上回る事ができるかに注目される。離脱が確認されると直近の高値4092円を試す可能性は高まり、離脱に失敗すると目先は3876円へ向けた調整に注意と思える。

< テクニカル >

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDとシグナルが上昇し、RCIでも短期と長期が上昇している。ただMACDではヒストグラムの伸びを欠いた動きや、RCIの短期の上昇が止まる動きなど、目先高値が止まる予兆を示しており、グッドフライデー明けの動きには注目される。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,214,000 円(2022 年 4 月 18 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 4 月 18 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>